



報道機関 各位

熊本大学

全国で 18 病院、県内では唯一
エキシマレーザー冠動脈形成術による画期的な治療法で効果

熊本大学医学部附属病院では、先進医療のひとつ、エキシマレーザー冠動脈形成術による複雑病変へのインターベンション*を実施しています。

エキシマレーザー冠動脈形成術はレーザー線で動脈硬化病変や血管にできた血栓を焼いて取り除く画期的な治療法で、難しい病変に効果があり、しかも痛みもなく、局所麻酔で安全に出来る高度医療です。全国で 18 病院でしか実施されておらず、県内では唯一、九州でも 4 病院しか受診することができません。

この治療法は、動脈硬化組織を蒸散・除去するため動脈末梢における塞栓の発生率が低く、冠動脈内に血栓を大量に認める症例、冠動脈バイパス術後のグラフト病変、びまん性に再狭窄を認める病変などに有効です。冠動脈病変に関しては、通常の保険診療で行え、先進医療特約付の保険に加入されていれば全額支給されます。また、糖尿病で足の先が冷たい、歩くと足が痛い方では、足の動脈硬化が進行していることが考えられ、特に膝下の動脈病変に対してはエキシマレーザー血管形成術が有効で、本院では積極的に取り組み、効果を上げています。

*インターベンションとは、2~3mm 程度の太さの管（カテーテル）を用いて行なわれる血管内治療を総称する言葉です

（資料説明）

資料 1 エキシマレーザー血管形成術 模式図

資料 2 左冠動脈前下行枝ステント再狭窄症例（76 歳男性）

- ① ステント内で冠動脈の完全閉塞を認める
- ② 別の角度からみた冠動脈造影
- ③ ガイドワイヤーを通してエキシマレーザーを行っている
- ④⑤⑥エキシマレーザー+バルーン拡張術後の造影

※①②③の造影角度は④⑤⑥に対応している。

【お問い合わせ先】

熊本大学大学院循環器病態学

担当：掃本誠治 ほきもとせいじ

電話：373-5175

e-mail：shokimot@kumamoto-u.ac.jp

資料 1 エキシマレーザー血管形成術 模式図

閉塞した血管



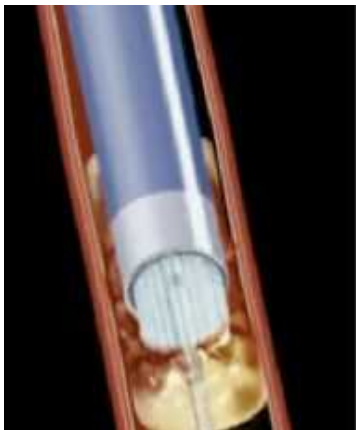
ガイドワイヤを通過



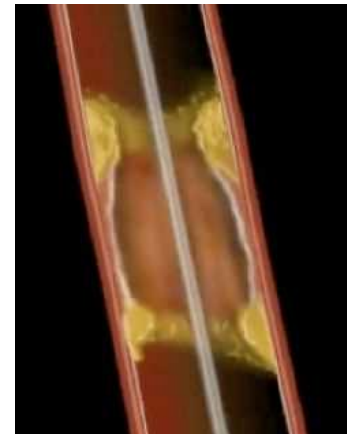
ガイドワイヤに沿わせて
レーザーカテーテルを近づける



レーザーを照射しながらカテーテルを進める



閉塞部位が開通



資料 2 左冠動脈前下行枝ステント再狭窄症例 (76歳男性)

